

日本が抱える諸問題



参議院議員 猪口 邦子

今回の日本の外交は、猪口邦子議員との竹本直一議員の対談を掲載いたします。(尚、この対談は4月27日に行われました)

竹本…4月28日で日本が主権を回復して60周年を迎えました。現在、日本はTPPと普天間の問題と揺れ動いています。まず、TPPについては、日本とアメリカは軍事同盟を結んでいる中で、TPPに入るかの話し合いが思えないという態度はあり得ないと思います。今の政権が、交渉に参加するという決断をしたことはそれなりに意味があったと思います。一方で、普天間の問題は、そもそも普天間基地を辺野古に移設したいと言いつつ出したのは日本側です。それにも関わらず、日本側の事情でクルクルと方針が変わり、アメリカにも迷惑をかけているという経緯があります。ですから、アメリカ側が嘉手納基地と統合すると言いつつ出したのは、もっともな意見だと思えます。このように、私は私なりの考えがありますが、まずは猪口先生のお考えをお聞きしたいと思っております。

猪口…普段から大変お世話になり、政策の面でもご指導いただいている竹本先生の対談で光栄に思っております。また、バンブージャージャーナルは、議員の

方々の中でも傑出した媒体であり、私も愛読させていただいております。私は、ワシントンD.Cで開催された、超党派の第3回日米議員会議から帰国したばかりで、竹本先生のおっしゃった案を提唱されているレピン上院軍事委員長とも議論をしてまいりました。TPPについて、どういう議論があったかと言いますと、アメリカは現在、11月の大統領選挙に向けて選挙戦一色になっており、日本の参加表明がもっと早い段階で明確にされれば、展開は変わったかもしれないが、このタイミングであると、日本を受け入れるにあたっての丁寧な調整や様々な妥協なども難しいとのことですので、外交はタイミングが大事ですので、積極的な協議に入るのであれば、もう少し早い段階での表明が大事だったのではないかと思えます。

また、アメリカ経済についてですが、アメリカの世論調査で、国家の最重要課題は何かという質問の中で、51%が経済と雇用の問題にあると答えています。その他が31%というのを別にする、財政赤字を改善するが5%

「社会保障」は3%となっており、オバマ政権は圧倒的に経済に力を入れる必要があります。オバマ大統領の選挙戦が盤石ではないと言われる最大の理由が、政権についた後、リーマンショックにより国民が雇用や経済に注力してほしいと考えていた時に、医療保険に注力したことです。医療保険自体は良いのですが、優先順位付けが違ったのではないかと、緊急事態に対する敏捷性に疑問符が付くわけです。オバマ大統領は非常に優秀な法学者で、ハーバード大学のLaw Reviewの編集者もやる一方で、上院の経験が一期だけで大統領になりました。そのため、自分の思いからの政策が強くて、事態に対する柔軟性に欠けているという人もいます。

普天間の問題は、先生がおっしゃった通り、1996年の残念な事件と、町の中にある基地という人道問題がきっかけでしたので、軍事的必然性がアメリカにあるわけではありません。そういう中で、嘉手納以南の基地の統廃合と返還、それと海兵隊のグアム移転は、再編計画の中で、軍事的必然性があります。それと人道的な理由から

移設するものを橋本総理の時にはしかしこくもパッケージにしたので、アメリカは普天間基地の移設に関して熱心にならざるを得ませんでした。しかしそれを切り離したという言葉で懸念されているのは、そこがアメリカにとって軍事的必然性がないからなのです。そこで、ずつと行き詰まっております。今度は上院議員達が嘉手納基地に統合すればよいのではないかとという提案を行いました。しかし、この案も軍事的には非常に難しいと思います。それは、滑走路は複数本用意されていなければならないことなので、海兵隊のヘリコプターや飛行機のための滑走路と、空軍のための滑走路を統合するという考えは、一見合理的に見えて、redundancy(重複)が安全保障上、有意義とも考えられます。公共事業を考えても、昔は2本の道路を並行して通すことは無駄だと言われましたが、最近では災害発生時の救助等の観点から、redundancy(重複)が重要だという議論もあり、安全保障も同じことなのではないかと考えています。

竹本…普天間基地と嘉手納基地を統合した時に、嘉手納以南の基地を返すという約束がありますが、それは実行できるのでしょうか。

猪口…嘉手納以南は、技術的な関連施設が大半ですので、元々アメリカ軍も合理化したいところでしたので、元々アメリカ軍の再編計画の中でも存在している考えですので、実行可能です。

竹本…アメリカサイドから見れば、上院議員の方々の言うように嘉手納基地と統合することが一番良いように思えるのですが、どうでしょうか。

猪口…今回のアメリカ軍再編の大きな考え方の変化は、Places not Basesという言葉であらわされます。Placesというのは、展開できる場所、練習できる場所ということであって、必ずしもBasesに執着するわけではないということです。つまり地理的に分散していることが大事であるという考え方が、ですから、ダーウインとか、スービック、

その他にもシンガポールや日本、ゲアム島など、いくつかの展開できる場所というものを、一部の海兵隊はローテーション方式で、訓練などで回ることになり。このように、大きな考え方の変化が起きている中で、沖縄の海兵隊をどう位置付けるかという話になってきます。だから、嘉手納にすべて統合してしまうことよりも、アメリカは沖縄の中だけでその問題を考えるのではなく、ダーウィンやスービツクのローテーションの一部としてとらえていると考えられます。

竹本…そうすると、普天間基地はこのままある中で、Paces は辺野古にありまうのでしょうか。



明快にしてしまうと反対派が強すぎて分裂してしまう可能性があります。

猪口…しかし、外交交渉というのは、Single Voice、つまり政府の声が明確に伝わらなければ、向こうはこちらを慮って配慮するということはしません。そのため、アメリカには明快な Signal が来てほしいですよ、という人もいます。

竹本…ただ、TPPというのは、実際には10年先の話ですから、大統領選挙が過ぎてからでも交渉をすれば良いと考えています。

猪口…そうですね。だから、今の政権には、消費税など他の重要案件に力を入れるべきです。自民党時代も、1内閣1仕事のように対応してきたわけで、何正面作戦のようにするべきではありません。

竹本…話は変わりますが、日本の外交は継続性がないと考えています。日本の外交担当者がコロコロと変わってしまう、これは非常に問題だと考えてい

猪口…そこは、普天間基地は、強固な基地ですので、その代替ということからすると移設するからには辺野古には基地としての機能を期待していると思います。もちろん Paces Port Bases、という考え方は、世界戦略上の話なので、Paces を辺野古なら普天間 Bases ということにはならないと思います。なぜなら、Bases となると、Politically Sustainable (政治的持続可能性) かどうかという点で、コストが非常に高くなるので、フィリピン、シンガポールは Paces として協力するということになるわけです。

竹本…先ほどの TPP について戻りますが、アメリカは大統領選挙の真つただ中なので、日本にとっては遅いということなのでしょう。

猪口…すべての外交交渉は妥協の産物です。日本が参加した後での具体的な協議の段階で、アメリカにも日本が世界で一番の水準の医療保険は手を触れるべきではないという意見も強くあり、

ますが、外交の専門家としてのお考えはいかがですか。

猪口…政権がどう変わろうと、事務レベルではきちんに対応できているとは思いますが、今は政商国家の時代です。政治のトップ自らが戦う時代を考えると日本は弱いと思います。外交においては持続性というよりは、積み上げたものを完成させることが重要です。それにもかかわらず、日本の場合は、今まで積み上げたものを崩して別の塔を建てようとしており、それは世界から見ると、日本の都合で積み上げたものを壊して、別のものを建てたいと言われていると困るということです。

竹本…まったくの同感です。世界の国々、特にアメリカはよく我慢してくれているとすら思います。

猪口…半ばあきれていると思います。でもそこにはやはり日米同盟があり、また震災の影響を受けた国ですので、非常に同情的です。そのことに関して、日本人が勘違いを起こすと、究

そのように要求すべきです。米に関して、日本は突っぱねるわけですが、大統領選挙を前にして、アメリカは妥協しづらい状況なのです。ですから、もっと早い段階、つまりは外交的妥協をしたことを回復できる時間があれば良かったのです。安全保障の面でも、経済の面でもそういう段階に来ています。大きな国の選挙というのは、そういう波があることを日本も分析できていたはずですが、国際のカレンダー、つまり内政と外交のすりあわせのカレンダーが必ずしも、今の政権は十分ではありません。そのため、世界のカレンダーについて逆算してやらなければいけないことができていません。他方で、今度、野田総理が訪米した時には、参加意欲を明快にするべき、日本には Clear Signal が欠けているとの意見もあります。外交で良く言われるのですが、どちらのゴールにボールが入っているのかを明快にしなければいけないのに、それができていないのです。

竹本…野田総理は、明快にしろとも明快にできないのではないのでしょうか。

極の凋落となります。世界はいま、日本に非常に甘いと思います。

竹本…例えば、震災の時のトモダチ作戦には莫大なお金がかかっています。これは、予算委員長のダニエル・イノウエ上院議員が尽力してくれたようですが、こういうことを忘れてはいけません。最後になりますが、拉致問題に関してはどう考えていますか。

猪口…アメリカは、北朝鮮のことを非常に心配しています。海兵隊は北朝鮮に対して、抑止力となっていますし、アジアでは冷戦が完全に終結していない、このことを忘れてはいけません。ゆえに、拉致問題の解決には、アメリカとの連携が欠かせないと考えています。

竹本…本日は貴重なお話、ありがとうございました。